

露店等を開設する際の留意事項について

(火気使用器具等を使用する場合)

山形市消防本部

祭礼、縁日、花火大会、展示会その他の多数の者の集合する催しに際して、コンロ等の火気使用器具を使用する場合は、事前に火災予防に十分注意を払ってから行ってください。下記の事項をチェックしてみましょう。

消火器について

- 消火器の準備がある。※使用方法を確認する。



コンロ関係

- 不燃性（不燃ボード、コンクリートブロック等）の台上で使用している。
- LPガスを燃料とするコンロの上方1m以内、周囲15cm以内に可燃物を置かない。
※炭を燃料とする場合は上方1m以内、周囲30cm以内に可燃物を置かない。
- 振動・衝撃で容易に転倒し、または落下するおそれのないよう据え付けている。
- カセットコンロは、カセットボンベ収納部分を鍋や鉄板で覆わないように使用する。
※カセットコンロより大きい鉄板や鍋、2台並べての使用を行わない。
- 使用中はその場を離れない。

プロパンガス関係

- ホースはひび割れ、溶融等劣化したものを使用しない。
- ボンベは直射日光を避け、風通しの良い場所に置いている。
- コンロとホースの接続部には、必ずホースバンドを取り付ける。
- 使用しないガス栓にはゴムのキャップを付ける。
- 使用後は器具栓だけではなく元栓も閉じる。
- ボンベは水平な場所又は台の上に置き、転倒しないような措置を講じている。



発電機関係

- 給油は原則として使用開始前に行う。やむを得ず途中で補給する場合は、エンジンを止め、エンジンが十分に冷却されていることを確認してから安全な場所で給油する。
- 給油する際、携行缶のキャップを開けた時に燃料が吹き出すことがあるので、火気のないところで携行缶のガス抜き栓をゆっくり開けてガス抜きをする。
- 給油後、燃料漏れのないことを確認してから始動する。
- 長時間使用する場合は適時にエンジンを停止するなど、過熱に注意する。
- 予備の燃料は消防法令に適合した金属製の携行缶に入れ、火気から十分に離し、直射日光を避けて風通しの良い場所で保管する。また、保管量は必要最小限度とする。

※1箇所に40ℓ以上のガソリンを保管することはできません。

ガソリンの引火点はマイナス40℃ 冬季でも容易に引火！
可燃性蒸気は空気の3～4倍重く、低所に滞留し広範囲に拡散する。

乗用車等で運搬する場合、容量22ℓ以下です。



電気器具関係

- 電気器具等の熱により可燃物が高温にならないように距離を保ち設置している。
- 電気器具の配線は適正に取り付け、過度の荷重や張力が加わらないようにしている。

問合せ先：消防本部予防課
TEL：023-634-1195